

市長から 市民のみなさんへ 35



山陽小野田市長 白井 博文

10月から窓口延長サービスをはじめました

本庁市民課・税務課での窓口延長サービスが10月4日よりスタートし、早速、多くの方に来庁していただきました。「便利になってよかった」「もっと（延長の日を）増やして欲しい」「もっと多くの窓口でも行って欲しい」～アンケートの回答からのご紹介ですが、おおむね、好意的に歓迎していただいたのではないかと考えているところです。毎週水曜日に午後7時までではありますが、しばらく試験的に続け、利用状況を見極めた上で、今後の展開を考えていくつもりです。市民のみなさんのご利用をお待ちしています。

山陽オート・市民病院 大きな懸案事項の解決に向けて方向性は定まりましたが…

合併時から、新市山陽小野田市の土台を揺るがし続けている財政問題ですが、中でも“双子の赤字”と言われ続けてきた「山陽オート」と「市民病院」について、9月議会で関連議案が可決されたことを受けて、解決に向けての一定の方向性を打ち出すことができました。

「山陽オート」については、表紙にありますように先日、日本トーター株式会社と民間委託の契約を交わすことができ、来年1月からオートレース場の運営をお願いすることになりました。仮に売り上げが落ち込んでも、最低保証額の1億1千万円は市の収益となり、経営上の赤字額が今以上、増えることはありません。また、現在、抱えている累積赤字については、その収益を充てていき、返済していくこととなります。詳しいことは、3ページから記事を掲載していますので、ぜひ、ご覧ください。

市民病院は公営企業となりました。事業管理者に就任した河合伸也病院局長のもとで、新たに生まれ変わった市民病院として、文字通り職員一丸となって市民のみなさんのご期待に沿えられるように、今まで以上に医療サービスの充実に努めてまいりま

す。並々ならぬ意気込みが4ページから掲載の河合管理者の決意表明から伝わってきます。市長としても、これからも市民病院の再生のためにできる限り協力し、支えていくつもりです。

難題であった“双子の赤字”について、まだ余談を許さない状況ではありますが、将来的な展望は描けるようになったのも束の間、「実質公債費比率」という自治体の借金返済等の割合をはかる数値が県内最悪という発表がありました。来年だけでなく、再来年以降の予算編成への影響は避けられない事態が予測されます。しかし、今回のオート・病院の問題に取り組む過程で、たとえ目の前に大きな壁が立ちただけで八方ふさがりのようであっても、全力で立ち向かっているうちに突破口が見えてくる、ということを我が身で感じたところです。努力すれば、扉は少しずつ開かれることを信じて、気を引き締めて再び難問に立ち向かっていく決意です。

福社会館のお風呂を再開しました

4月から休止していた本山・高泊の福社会館のお風呂を10月から再開しました。日ごろ、ご利用されていた方には休止の間、ご迷惑をおかけしました。深くおわび申し上げます。やむをえず営業時間短縮での再開となりましたが、その点についてはご了承していただきたいと思います。なお、石丸総合館に関しては、利用者のご希望をおうかがいした結果、再開は見送りました。

今年度、予算査定の段階で、福社会館の風呂を長年利用し、憩いの場、交流の場として楽しみにされていた方々のことまで考えを巡らさなかったのは、市長としては失策です。今回の風呂のことで、市民サービスを切り下げることについて、経費の面だけで判断するのではなく、もう少し慎重を期さなければならぬと、厳しい作業が予想される19年度予算編成を前に自戒しているところです。



対話の日

10月26日(木) 須恵西自治会館
11月 8日(水) 山野井公会堂
11月22日(水) JA後潟出張所
※19:00から 1時間30分程度です